

早耳のマニアに超話題!

「出川式電源」の開発者、出川三郎氏が 画期的な電源アクセサリを発売

磁石の力でノイズを除去するという、電源ノイズフィルター。
その注目の効果と音質をいち早くレポートした!

出川式という名の電源回路 聴き比べると確かに効果が

A & R Labの出川三郎代表の名前を知ったのは、2007年だった。(有)出水電器の島元澄夫社長が自社のプリメインアンプ ALLION に、出川さんが開発した出川式電源を組み込んだと話してくれた。これを入れると製品コストが跳ね上がって頭が痛いけど、音を聴いたら採用せざるを得ないとこぼしていた。

その出川式電源について、出川さん自身にこく簡単に説明してもらおうと「オーディオ機器に使用されている従来電源(コンデンサー・インプット回路)は、実は完全なものではなく、負荷電流の欠落が毎サイクル2回ほどある。それによってノイズも発生する。それを補うための補助整流回路」ということになる。

なぜ自分で説明しないのかということ、文系の僕には何度説明されても、そのあたりについてはまったく飲み込めない。

ただ、A & R Labに行って、同じCDプレーヤーで出川式電源の有る無し比較をしたところ、フワツとした音の広がりや見通しに大きな隔たりがあった。なるほど、これは認めないわけにはいかないだらう。

磁石の力でノイズを取り去る 新しいノイズフィルターを開発

その出川さんが「Magnetic Noise Reduction MNR・0602」(以下MNR)なるものを発売した。本誌試聴室でその効果を確認する際、出川さんにも同席してもらえたので、話を聞くことができた。

「電源に含まれる高周波ノイズをこれで除去します。構造はシンプルで、複数個の強力なマグネットやトルマリンによって磁界のトンネルを作り、その中心に電力線を通してノイズを吸収させます。高周波は熱に変換されて、はね返ってくることはありません。いま特許を出

願しているところです」

家電製品はスイッチング電源化の波がきている。テレビ、パソコン、DVD、パソコン。特にインバーター関連はものすごいノイズを出している。出川さん自身は、技術者であるのと同時にオーディオマニアでこれがずっと気になっていた。

「既存のノイズフィルターを使っていましたが、ノイズを抑えても肝心の音楽が痩せて聴こえるんですね。これをなんとかしたかった」

MNRは、インレットとアウトレットはパラレルになっているだけなので、デジタルとアナログ系とで分けて使った方がよさそうだ。どちらかひとつというなら、デジタルが効果的だろう。

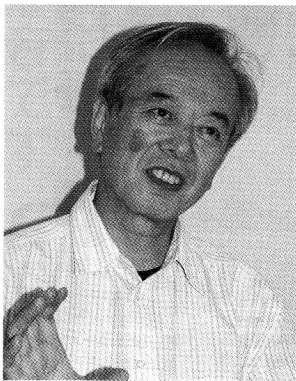
早速いろんな場所で試聴すると 電源事情の良否が如実に現れた

そこで、出川さんがわざわざ持参してくれたマランツのCD6003(CDト

●取材/執筆
田中伊佐資
Isashi Tanaka



A&R Lab 代表の出川三郎氏。MNRは複数個の強力なマグネットが磁界のトンネルをつくり、磁界の空の部分、つまり中心に電力線を通してさせることで、メイン電流はそのままで、重畳する高周波ノイズ成分だけを磁界と電気石を使い、熱に変換して消滅させるという





MAG-NOISE SUPPRESSOR MNR-0602

¥44,000

SPEC ●規格:AC 125V、LIMIT 15A(1500W以下で使用) ●サイズ:800×1,500×600mm ●アウトレット:2口
●取り扱い:A&R Lab 〒257-0001 秦野市鶴巻北 3-10-23 TEL / FAX 0463-76-9606
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~degawa/>

ランスポートとして使用)と、フィードバックのDAコンバーターCAPRICEにMNRを入れて聴いてみた。ソフトはこれも出川さんがレファレンスにしている

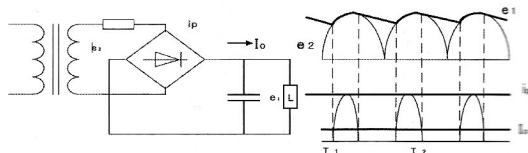
レディ・キムの「レフト・アローン」である。

ノーマル状態から次にMNRを通したときの変化の具合は、最初のピアノから違っていた。ピシッと締めまり、響きが豊かに広がる。無し状態では、音の芯が甘かった。キムの声もやはり、フォークスがきっちり合ってハイファイ的になる。スタジオのモニターのように音の所在が分かる。

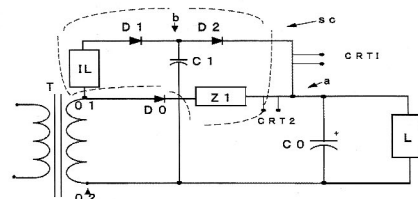
元のノーマルに戻すと、もっさりした感じで、緊張感がないともいえる。良くいえばグラマラス。やはり、有りの方が細かい音が浮き上がって露わになるような印象だ。ノイズで、微妙にマスキングされていたということだろう。試験室は秋葉原のビル内にあり、ご多分に漏れず電源にノイズが混入しているようだ。

では電源対策をばっちり行っている場所ではどうか。本誌16ページに掲載している、「マイ柱状トランス」を設置した吉原幸雄さんの家にMNRを持って行き、トランスポートに繋げて聴いてみた。試験室ほどの劇的な変化はなかった。やはり「マイ柱」はすごいなと、別なところで感心してしまった。

島元さんから聞いた話だが、出水電器の蒲田試験室でも試したが、激変ということではなかったらしい。ここでも、さすがは商売というぐらい徹底的に電源対策がされているのである。



コンデンサー・インプット整流回路と電圧・電流波形図



第二世代シリーズ電源の図。出川氏の説明によると、「第二世代シリーズ電源(出川式電源)は負荷電流の供給欠落時間帯に、別の種別整流回路で整流、コンデンサに電荷をフローティングさせておき、メイン整流回路と補助整流開始時間との時間差をもうけ、その時間内にフローティングさせておいた電荷をメインコンデンサに注入することで負荷電流の供給欠落を解決したものである(特許No413576号)」。それにより、電源回路での高調波ひずみの改善と欠落音声信号を全て再生することで、従来のシステムではできなかった倍音再生(自然界の音)が可能になり、ホールトーンの再生が可能となる。また、DAコンバーターなどのデジタル回路の電源に使用すると、正確なデジタル波形が再生され、デジタル回路の輝度、解像度の改善が図れるということだ(詳細な情報はA&R Labのサイトにあり)

自宅でも使用してみると 残念ながら効いてしまった!

そして、僕が自宅を持って帰って試した話になるのだが、残念ながら効いてしまった。薄々はそうなるかなとも思っていた。電源対策は、工事も含めてしっかりやっている方ではある。ただ、台所内が家内の食事の支度を始めると、わずかに音質が落ちることがあった。おそらく電子レンジが悪さをしているのだろう。

話がそれってしまったが、MNRによってどう向上したかという点、アイロンをかけたようにバリツとして、音の輪郭がしっかりした。硬化したわけではなく、響

きもたっぷりで音自体はほぐれている。

試験したハービー・ハンコックの「リヴァー」は、ピアノがモヤツとしている印象で、演奏はいいのだが音はそれほど好きではない。これが、スキツとして空間が出てきた。このあたりは試験室の変化と同傾向のものだ。女性ヴォーカルや生ギターなどをメインにしたセンチメンタルな音楽から、ハードロック系も試してみたところ、ジャンルに関係なく結果は良好。これが、どちらかといえばというレベルではなく、はっきり白黒がつくほどだった。高周波ノイズの混入を知り、MNRの効果を体感——オーディオの階段をまたひとつのぼった気がした。